

# ひらか 連携ニュース



当室では、がんを抱えた患者さんやご家族がご自身の生き方を大切に、自分が望む場所で安心して過ごせるよう、地域の医療機関の先生方や多職種と連携を図り、在宅療養支援を行っています。

今月は、外来通院中、病状の悪化を認め、ご自宅での療養を選択された患者さん・ご家族への支援についてご紹介いたします。

## がん終末期にある患者さんの在宅療養支援

### Aさん 70代 男性 前立腺がん StageIV

#### <治療経過>

平成27年3月、体重減少、体動困難を主訴に当院受診。泌尿器科にて前立腺がんの診断を受ける。初診時、骨盤内リンパ節転移、多発性骨転移あり。内分泌療法、放射線療法等にて全身状態が回復したが、同年10月より再びPSAが上昇。治療薬を各種試行したが病勢の進行が続いていた。平成29年8月よりADL低下のため通院困難となり、今後の治療方針について主治医・家族と検討中であった。

#### <当室が介入した経緯>

平成29年9月4日、担当ケアマネジャーより当室へ電話で相談をいただく。

「経口摂取困難で水分も少ない状態。興奮しやすく精神的にも不安定で妻が介護に困っている。ADL低下のため通院は難しい。かかりつけ医を決め、訪問診療をすすめたい。」

#### <在宅療養支援の経過>

##### 1. 情報収集とアセスメント

- 前立腺がん StageIV (T3 N2 M1 H27.3.6)
- H29年7月に経口摂取困難となり、抗がん剤の内服を中止。4週に1回のリュープリン注のみ継続。
- 本人の想い「入院したくない。」… もともと治療には消極的であった。
- 家族の想い「これ以上の積極的な治療は希望しない。家に往診に来てくれる先生にお願いしたい。」
- 予後は月単位。がん性疼痛等、コントロールが必要な身体症状はなし。
- 要介護4 妻との二人暮らし。妻は脳梗塞の既往があり、夫の病状について理解不足のことがある。長男夫婦は秋田市在住。
- 自宅近くに訪問診療が可能なB医院あり。本人の通院歴もあり、家族がB医院を希望。



#### 医療上の問題

- 経口摂取困難に伴う栄養状態悪化、脱水の危険性
- 疼痛出現時、症状悪化時の対応
- 前立腺がんの治療薬の継続

#### 生活・介護上の問題

- 全身状態の悪化に伴うADL低下
- 老々世帯による介護力の不足
- 本人・家族に対する精神的サポート

##### 2. かかりつけ医の決定、介護サービスの調整

- 9/4、主治医と相談しB医院へかかりつけ医を依頼する。すぐに承諾をいただき、翌日初回訪問。
- ケアマネと訪問看護の利用について相談。家族から利用の希望あり、B先生と相談し、C訪問看護ステーションの利用を決定。病状観察や療養上のケア、精神的支援等を依頼。9/6、初回訪問。
- 今後、Aさんの病状、妻の介護状況に応じて訪問介護、訪問入浴、ショートステイ等の利用を検討。
- リュープリンは病状に応じて投与を検討。病状悪化時、急変時は当院泌尿器科で対応。

#### 最近のAさんの様子 H29.11月

経口栄養剤の摂取により徐々に体力が回復し、現在は妻の介助で食事をとれるようになりました。お風呂が好きで、訪問入浴とデイサービスを利用し、週2回の入浴を楽しんでいます。症状の悪化はなく、妻の熱心な介護を受けながら、在宅療養を続けています。

訪問看護師、ケアマネジャーより

